

平成 28 年 10 月 21 日

<各位>

ナノキャリア株式会社
代表取締役社長 中富 一郎
(4571 東証マザーズ)
問合せ先 CFO兼社長室長 松山哲人
電話番号 03-3241-0553

興和株式会社との NC-6300 (K-912) の ライセンスおよび共同開発契約について

2016年10月21日付で興和株式会社（代表取締役社長：三輪芳弘）より、同社と2011年9月26日付で締結したエピルビシンミセル「NC-6300 (K-912)」の全世界における独占的な製造・販売のライセンスおよび共同開発契約に対する、解約申出を受領しました。

興和株式会社は、グローバル戦略の中で欧米を中心とした開発を先行させるにあたり、開発品目の優先順位の変更を図るため、今般の解約申出に至ることとなりました。契約に定める所定期間の経過をもって本契約は終了することになりますが、別途ご案内のとおりNC-6300の開発は当社が継続して進めて参ります。

なお、進行性や転移性の固形がん患者を対象にして NC-6300 (K-912) の安全性および忍容性ならびに抗腫瘍効果を検討する、同社と共同開発を進めておりました国内第 I 相臨床試験は、全患者への投与が完了しております。現在、論文等による試験結果の発表準備が進められております。最終のデータ解析を待つ必要はあるものの、NC-6300 (K-912) の国内第 I 相臨床試験の状況から、エピルビシン特有の副作用である嘔吐や骨髄毒性などの抑制傾向が見られ、通常のエピルビシン投与量よりも高用量での投与も可能であったこと、また、12 か月間を超える投与例が存在していたにもかかわらず心機能の低下傾向が認められなかったことから、良好な結果であると認識しております。

本件による平成 29 年 3 月期の業績への影響はありませんが、NC-6300 (K-912) 以外にも国内外における自社開発や新しい医薬品の可能性を追求する共同研究などの積極的な推進により、業績見通しに変化が生じた場合には速やかに開示いたします。

=====
エピルビシンミセル「NC-6300 (K-912)」:

世界的に幅広く使用されているアントラサイクリン系の抗がん剤の一つであるエピルビシンを内包したミセル化ナノ粒子製剤で、その特性により、エピルビシンの有する心毒性の軽減が期待されています。また、pH 応答性薬物放出システムを採用することで、腫瘍細胞内でのエピルビシンの放出量を高め、既存のエピルビシンに比べより強力な抗腫瘍効果が期待されています。

以上

本リリースに記載されている医療用医薬品（開発品を含む）の情報は、当該製品を宣伝・広告するものではなく、投資家への情報開示を目的とするものであって、その製品化を保証するものではありません。